

平成 29 年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人ほのぼの苑

# 平成 29 年度事業概要

平成 28 年 4 月から、社会福祉法の一部を改正する法律の施行により、社会福祉法人制度の改革が進められる中、当苑においても、平成 29 年度は、4 月 1 日に施行された新定款により、議決機関としての評議員会を設置し、6 月 26 日に第 1 回評議員会を開催し、平成 28 年度の事業報告及び会計決算等の承認、理事及び監事の選任等を行いました。また、役員等の権限と責務の明確化を図り、財務諸表等の公表等を行いました。

地域における公益的な取組として、地域福祉の向上を目的とした「介護者のつどい」の開催や、地域の中学生を対象に「福祉のしごと説明会」を行いました。

平成 29 年度は、特養の稼働率が前年度とは幾分改善（プラス 1.2 %）した 96.0 % となり、事業収入は微増となりましたが、その一方、事業支出では、必要な介護人材確保による人件費の増、大雪による水道光熱費の増、石油の高騰による燃料費の増等、また、当苑も平成 12 年 10 月に開業以来 17 年半が経ち、建物や設備機器等に老朽化の進行や耐用年数が到来しましたので、空調衛生設備や消防設備等の修繕、福祉車両・介護ベッド・ガス乾燥機・カラオケ機器・厨房機器等の入替購入等を行い、多額の費用を要しました。その対応として、基金の一部取崩や社会福祉充実残額の活用を行いました。

平成 27 年 4 月から特養の入所基準が原則要介護度 3 以上と改正されたこともあり、入所者様の重度化がみられる中で、必要な介護人材の確保を図るとともに、介護人材育成委員会において職員研修計画を作成の上、研修会への受講促進や内部研修の実施等により職員の育成を行い、介護力の向上に努めました。

平成 30 年度も社会福祉法人制度改革に適切な対応を進めながら、経費の効率的な運用に努め安定した事業経営を行い、基本理念「みんなで笑顔のために」のもと、施設のご利用者様、ご家族や地域の皆様に愛され信頼される施設を目指し、職員一丸となって一生懸命頑張ってまいります。

## 【事務グループ事業報告】

平成 29 年度、事務グループでは主に介護環境の改善等に取組みました。

詳細は下記のとおりです。期末の利用者状況については別紙のとおりです。

(なお、社会福祉法施行規則第 2 条の 25 第 3 項における事業報告の附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項がないため省略しております。)

項目	内 容
法改正に対応した制度の適正な実施	<ul style="list-style-type: none"><li>・改正社会福祉法（法人改革関係）、改正育児介護休業法（最長 2 年の育休・ハラスメント防止等）、有期雇用特別措置法（無期限転換ルールの特例認定）に基づく規則等の改定と、職員への研修を実施した。</li><li>・防災・防犯対策として、昨夏の福井県防災訓練において福祉避難所として参加、改正土砂災害防止法に基づく防災計画を策定し町へ届出をおこなった。施設内においては、防災に関する研究発表および防犯マニュアル見直しと緊急連絡訓練等の周知活動をおこなった。</li><li>・平成 30 年介護報酬改正について、ご利用者家族への事前案内と契約更改を実施した。介護予防通所介護の制度廃止に伴う総合事業移行について必要な手続きを行った。</li><li>・介護休業取得者・育児短時間勤務者に対する案内・手続等、家庭との両立支援を図った（3 月末現在の産休育休者は 3 名、時短勤務者は 2 名）。</li></ul>
施設設備の補修整備	<ul style="list-style-type: none"><li>・経年劣化による備品等更新一軽自動車（車イス仕様）・スチームコンベクション（調理機器）・食器・カラオケ・車イス体重計・ストレッチャー式体重計・吸引器・離床センサー・歩行器・血圧計・パルスオキシメーター・配膳車バッテリー・回診車・加湿器・低床ベッド等入替。</li><li>・各種修繕実施一空調管理パネル・ファンコイル・トイレ・洗面所・給湯配管・ベランダパネル・看板・消防設備（換気設備、誘導灯、防火ダンパー）・給湯ポンプ・ボイラー・水栓・排水・特浴ストレッチャー・車イス・離床センサー・ガステーブル・パソコン、自動ドア等修繕。</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・常勤看護職 1 名を中途採用し、看護体制の強化を図ることができた。</li><li>・インフルエンザ対策・福利厚生として、職員の予防接種勧奨と費用補助、接種状況確認等により、感染の予防・拡大防止に取り組んだ。</li><li>・8/21 職域ガン検診（乳がん・子宮がん）を実施、延べ 32 名が受検した。職員健診後には保健指導を継続実施し、生活習慣病予防・健康管理に対する意識啓発を行った。</li><li>・職免措置及び学費補助等の資格取得奨励により、当年度介護福祉士国家試験においては 3 名合格、介護支援専門員試験においては 2 名の合格者を出すことができた。</li></ul>

# 利用者状況等報告

## 1.平成29年度 サービス別稼働率

	施設		短期入所		通所介護	
	利用延人数(人)	稼働率	利用延人数(人)	稼働率	利用延人数(人)	稼働率
4月	3,184	96.48%	260	86.67%	232	77.33%
5月	3,197	93.75%	262	84.52%	254	73.62%
6月	3,155	95.61%	272	90.67%	248	75.15%
7月	3,230	94.72%	307	99.03%	238	75.56%
8月	3,208	94.08%	269	86.77%	258	74.78%
9月	3,121	94.58%	215	71.67%	259	82.22%
10月	3,353	98.33%	240	77.42%	274	83.03%
11月	3,173	96.15%	266	88.67%	282	85.45%
12月	3,286	96.36%	271	87.42%	250	83.33%
1月	3,329	97.62%	261	84.19%	238	79.33%
2月	3,006	97.60%	280	100.00%	219	73.00%
3月	3,311	97.10%	293	94.52%	276	83.64%
合計	38,553	96.02%	3,196	87.56%	3,028	78.85%
平成28年度	38,077	94.84%	3,192	87.45%	3,199	62.24%

## 2.市町別施設入所状況

平成30年3月31日現在

	南越前町			福 井 市	鯖 江 市	越 前 市	敦 賀 市	若 狭 町	勝 山 市	合 計
	南 条	今 庄	河 野							
男	8	1	0	0	1	10	0	0	0	20
女	37	13	3	2	2	30	2	1	0	90
合計	45	14	3	2	3	40	2	1	0	110

## 3.施設サービス年齢別状況

平成30年3月31日現在

	~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~99	100~	合計
男	0	2	0	1	5	7	4	1	0	20
女	1	2	2	8	9	17	36	12	3	90
合計	1	4	2	9	14	24	40	13	3	110

平均年齢 87.9歳(男:84.9歳、女:88.6歳)

最高齢:102歳、最年少:62歳

## 4.施設サービス介護度別

平成30年3月31日現在

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	更新申請中	合計
男	0	1	10	7	2	0	20
女	1	2	30	30	27	0	90
合計	1	3	40	37	29	0	110

平均要介護度 3.81(昨年度3.86)

## 5.施設在苑期間別

平成30年3月31日現在

	6ヶ月 未満	6ヶ月～ 1年	1年 ～ 2年	2年 ～ 3年	3年 ～ 5年	5年 ～ 7年	7年 ～ 10年	10年 ～ 15年	15年 以上	合計
男	3	5	5	1	3	1	0	2	0	20
女	8	15	21	6	8	12	13	6	1	90
計	11	20	26	7	11	13	13	8	1	110

平均在所期間:45.5ヶ月

## 【企画相談グループ報告】

社会福祉法人として「地域における公益的な取り組み」が責務化され、前年度に続き「介護者のつどい」等、地域福祉に関する取り組みを実施しました。日々の業務では多職種が連携し質の良いサービスを提供出来るように人材育成委員会をはじめ各委員会に参画しました。

項目	内 容	備 考
介護者のつどい 「ほのぼのカフェ」	南越前町の南条地区を中心として在宅で介護をする方の介護負担軽減のため、6月は排泄アドバイザーを招き、排泄介護について、11月は音楽療法を取り入れ、介護者の気分転換やストレス発散して頂くことを目的として実施する。	6月21日 11月14日
福祉のしごと説明会参加	県社協人材センターからの依頼で「福祉のしごと説明会」で河野中学校において実施。介護の仕事について、ほのぼの苑で取り組んでいる内容について説明をして福祉の仕事に興味関心を持ってもらう事が出来た。	河野中学校
人材育成委員会	新しい取り組みとしてサポート体系を作り、全員が指導し、指導されるシステムを作り、苑内研修についても充実を図れるよう努めた。	毎月第2水曜日
事故防止委員会	介護事故事例検討会の実施や危険予知訓練シートを用いた危険の予測と察知のトレーニングを行う。また、起きてしまった介護事故を教訓にするため事故後の検証作業をインターネット回線を利用して注意を促したり情報の共有化を浸透を図る。	毎月第2水曜日
口腔ケア・食事委員会	目的を持って口腔指導を受け、記録に残すことで、ケアの統一を図った。 美味しく楽しい食事が提供できるよう、食事環境や食事の姿勢、食事用具の見直しを行った。	3ヶ月1回
看取りケア委員会	住み慣れた環境において最期までその人らしく生きる事を支えためにも、委員会が中心となり充実した看取り介護を実践できるよう毎月委員会を開催した。	毎月第4水曜日
入所順位調整委員会	平成29年度の新規申し込みは67名で、入所された方は38名。退所の方は34名。(前年度末の在籍数が106名で4名少なかった為)29年度末の入所待機者の数は52名である。	毎月

## 【介護グループ事業報告】

介護グループでは、それぞれのフロアの特色を生かしたケアを展開し、利用者の方々が日々快適に、より満足できるケアを提供できるように多職種と連携をとりながら援助しました。

項目	内容	備考
自立支援ケア	<p>【水分ケア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日 1500ml 目標に飲める工夫をする</li> <li>・毎日の水分量の記録</li> </ul> <p>【食事ケア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事形態のレベルアップ</li> </ul> <p>【活動ケア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の生活動作を通じたりハビリの実施</li> <li>・リハビリ専門職によるリハビリ指導受ける</li> <li>・歩行練習タイムの実施</li> </ul> <p>【排泄ケア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オムツを使わない生活で快適に過ごせるよう支援する</li> </ul>	<p>好みの飲み物 こまめな水分補給  きざみ食の見直し</p> <p>11:15～11:30 (365 歩のマーチ) トイレ、ポータブルトイレの介助</p>
看取りケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頻回に訪室し、コミュニケーションを図りながら安楽の援助に努めた</li> <li>・口腔内の清潔保持に努めた</li> <li>・家族の方が落ち着いて過ごせる環境設定の実施</li> </ul>	
楽しみのある生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四季折々の行事を企画し、利用者の方に楽しんでいただく、家庭的な雰囲気で、より個別の関わりを持つためにも少人数での外出支援を実施</li> <li>・温泉一泊旅行の目標を立て、利用者の方、職員が共に目標に向かい日々のリハビリ等に励んだ</li> </ul>	<p>温泉旅行 バーベキュー 運動会 菊人形見学 故郷訪問 外食・ショッピング</p>
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故を未然に防ぐための観察力を高めようと利用者一人一人のリスクや特徴を記録し、スタッフ全員が共有できるように努めた</li> </ul>	個別リスク表
ミーティングの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出来るだけ多くのスタッフが参加し、申し送りとともに業務改善や個別ケアの実施等、早急に検討が必要な課題についての話し合いの場を設けた</li> </ul>	毎日 13:45～

## 【 H29 年度 看護グループ事業報告 】

施設看護職不足の中 今年度は5.5人と人員には恵まれ昼夜を問わず迅速に医務室業務に対応する事が出来ました。中でも業務を見直した事でより多くフロアに行きケアをする事が出来ました。

ショート利用者・特養入所者も複合疾患があり重度化している為 相談員や介護職と一緒に入院施設に出向き安心して苑で生活できる様に情報収集に努めました  
主な活動を報告します

項目	内 容	備 考
連携 (介護職)	新人研修 介護職吸痰等資格取得指導（苑内） 医療知識の実技学習会（インフルエンザ ノロ感染症対策 緊急時の対応） 入所者温泉旅行同行（1泊2日） AED説明会（新機種 2台）  嘱託医との連携  協力病院との連携	新規4名(計26名) 2回 山代・芦原 2回  山本内科  3名
活動	入所者胸部X-P撮影（バス検診）  インフルエンザ予防接種（全員） 肺炎球菌ワクチン（対象者） 看取り介護（計22名）  町外総合HPでの高度治療同行 定期病院受診（主に林 HP 中村 HP） 老施協 看護研究出席（3回） 出張 吸痰資格取得講師 外部研修参加（リーダー研修 他 施設との交流 褥瘡 感染）	62名（新規入所 者 多数にて例 年より少數）  病院での死去 者（9名） 3名  2回 4回

## 【給食グループ事業報告】

給食グループでは 昨年度と同じ“喜んでもらえる食事の提供”と“安心安全な食事の提供”を目標に 以下のことに取り組みました。

項目	内容	備考
嗜好調査	4月と10月に各フロアの食事委員とデイサービス職員を通じて 菓の食事に関するアンケートを実施。結果から 献立の見直しや希望を取り入れるなど行った。	
行事食 バイキング	行事食…月1回 その月に合わせた行事食を実施し調理員の手作りのカードを添えて提供了。 バイキング…デイサービスで月に1回程度昼食時に実施。 デザートバイキングはフロアから依頼があった時に実施した。	
衛生会議	給食会議の開催に合わせて行い 施設・調理員・作業工程上の衛生管理についての見直し、記録用紙やマニュアルの改訂を行った。	
衛生教育	保健所や食品衛生協会の開催する食中毒予防の講習会に参加し グループ内で伝達講習を実施。また 他県での食中毒事故の発生状況などを毎日のミーティングの中でも伝え 注意喚起を行った。	

## 【H29年度 通所介護事業報告】

デイサービスでは“寝たきりと認知症にならない”を目標に7つのポイントについて知識を高め、大切なことは自分は認知症や寝たきりにならないという「決意」を持って生活・行動していただく、利用者個々の状態を把握し対応ができた。楽しみが持てる行事、ドライブ、季節を感じる工作、手作りおやつに取り組んだ。

項目	内容	備考
ケア	“寝たきりと認知症にならない”ための7つのポイントに応じたサービスの提供と、対応に努めることができた。	7つのポイントの理解
職員	情報伝達方法を考え、共有が出来た事で、状態把握、統一したケアを行う事ができた。	
研修	外部研修の参加は少なかったが、苑内の研修に参加や担当をする事で意識を高め、知識を深める事ができた。	研修不参加職員への伝達
行事	・手作りおやつ ・ドライブ ・出前、外食	利用者に意向を聞きながら実施

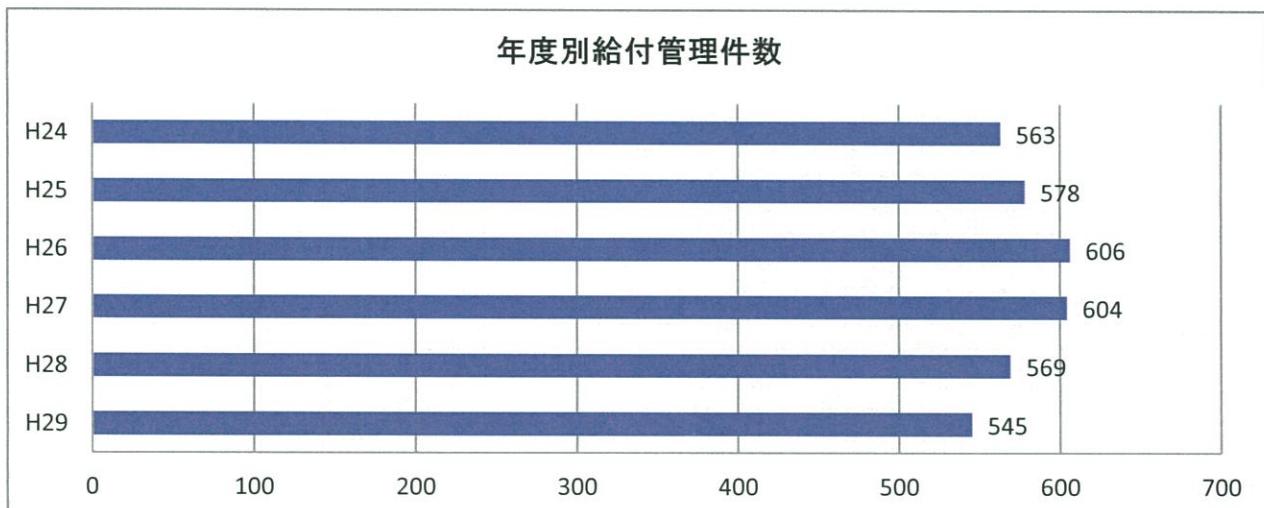
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
利用者	77	155	83	171	80	168	87	151	100	158	94	165	100	174
	155	171	168	151	100	158	94	165	107	175	95	155	94	144
計	232	254	248	238	258	259	274	282	250	238	219	276	3028	-171
事業対象者	8	9	8	7	10	8	8	14	8	7	8	7	102	+65
要支援1	3	5	4	5	4	2							23	-144
要支援2	24	19	24	22	25	19	24	17	28	14	28	16	32	18
要介護1	11	54	15	66	12	63	19	55	24	65	21	59	25	64
要介護2	16	63	22	74	22	77	20	77	22	76	19	86	19	88
要介護3	7	19	8	9	9	9	12	2	12	3	16	4	16	4
要介護4	8												4	3
要介護5													0	0
ケアカンファレンス	0	3	1	3	1	3	3	1	1	3	1	0	1	1
個人計画	0	3	1	3	1	3	3	1	1	1	1	3	1	0
稼働率 %	77.3%	73.6%	75.1%	75.5%	74.7%	82.2%	83.0%	85.4%	83.3%	79.3%	73.0%	83.6%	78.8%	16.60%
新規利用	0	1	0	1	0	1	2	2	0	1	1	0	1	1
事故件数 (転倒、骨折)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-2
ひやりはつ件数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	+1

## 【居宅支援グループ事業報告】

平成29年度は「次に活かせるモニタリング力を持つ」を目標に、サービスの質の向上に重点をおいた。具体的な利用者状況等に関しては別紙のとおりである。

項目	内容	備考
相談援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回のモニタリング訪問の際には、サービス提供状況や本人満足度、支援目標の達成度、計画変更の必要性を意識することで、効果的に聞き取りできるようにした。</li> <li>・状態に応じたサービス調整、福祉用具貸与、購入、住宅改修などの書類作成、申請を行った。</li> </ul>	
給付管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規受け入れや他事業所閉鎖に伴う引継ぎ受け入れを積極的に行つたが、のべ給付管理件数が前年度より24件マイナスとなった。</li> <li>・居宅サービス計画書の届け出時のタイミングで返戻により、月遅れ請求、修正などの対応を行つた。</li> <li>・事業対象者、予防支援者の実績報告を委託されている地域包括支援センターに確実に行つた。</li> <li>・加算を伴う、入退院時の連携を確実に行つた。</li> </ul>	※別紙参照
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議にて個別困難事例の検討や地域の課題検討に参画した。</li> <li>・地域ケア会議に事例提出し、「独居高齢者の支援」「低栄養者の支援」について検討。利用者を支える上でのつながり、結びつきの大切さについて理解を深めた。</li> <li>・高齢者が安心して暮らせる町づくりを目指し多職種連携の大切さを学んだ。</li> </ul>	
研修・会議	<p>※南越前町ケアマネ連絡会に毎月参加し、年間を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジメントの基礎を見直し、自立支援型ケアマネジメントのケアプラン作成に関する事について知識を深めた。</li> <li>・引き続き、ICFの考え方に基づいたアセスメントを活用しよりよいケアプランの立案ができるようにした。</li> <li>・アセスメントをより良くするためにアセスメント用紙を検討し活用した。</li> </ul>	

### 【グラフ①】



## 平成29年度 居宅支援事業報告別紙

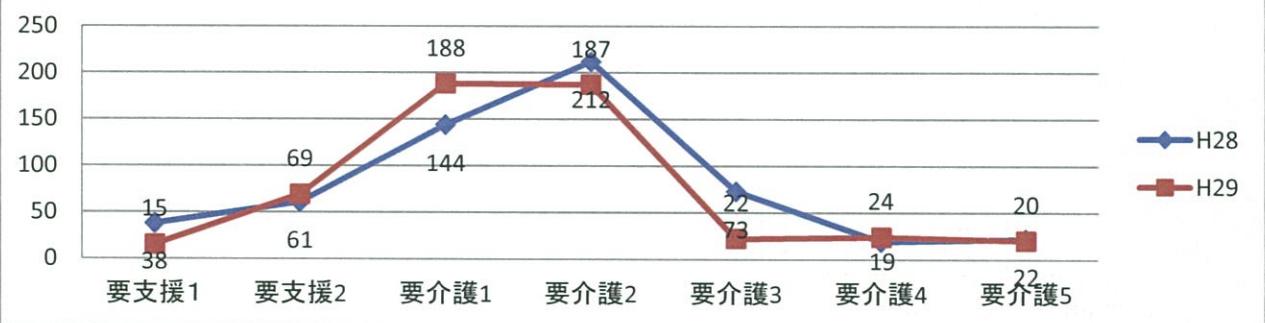
### 【月別認定調査件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年度
認定調査	1	2	3	3	2	0	1	2	4	3	4	1	26	31

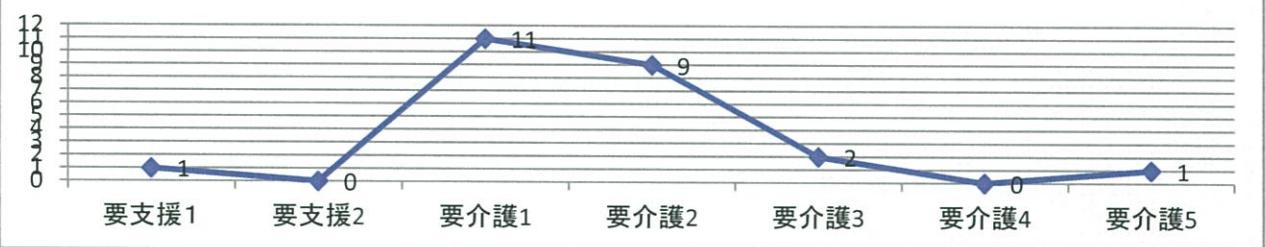
### 【月別新規契約及び給付管理件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年度
新規数	3	3	3	1	1	4	3	0	2	1	2	1	24	19
支援事業対象者	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	3	4	20	0
要支援1	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	15	38
要支援2	7	7	6	5	5	5	7	7	6	5	5	4	69	61
要介護1	10	14	14	16	16	18	17	18	19	15	14	17	188	144
要介護2	13	16	16	15	14	14	15	16	17	17	17	17	187	212
要介護3	4	2	1	2	1	2	3	2	2	1	1	1	22	73
要介護4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	19
要介護5	3	1	1	2	1	1	1	2	2	2	2	2	20	22
合 計	41	44	42	45	42	45	47	49	51	46	45	48	545	569

**介護度別給付管理件数**



**介護度別新規契約者件数**



### 【グラフ④】

**契約終了後の行先別件数**

